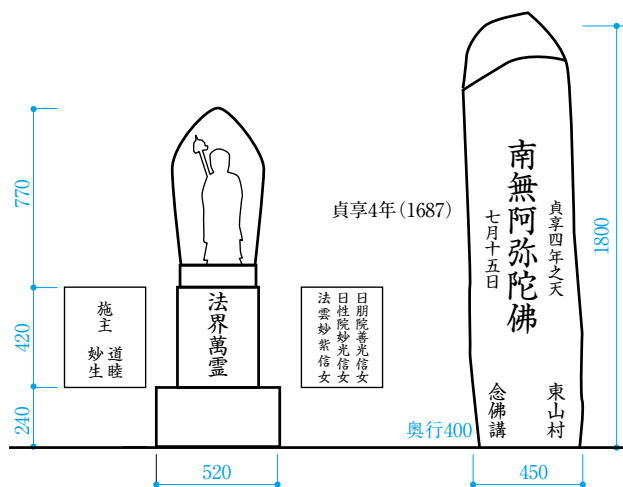




11 法界萬靈地藏

新宮参道(川入770)

第二編 題目石等の石碑



昔、この地に仁王門があり、参道の脇には松並木があった。真如院の仁王門の裏側に説明書きがある。

法界：真理の世界、全宇宙を指す。
萬靈：この世のあらゆる生き物、全ての精霊を意味する。
法界萬靈地藏は、三界(欲界、色界、無色界)に存在するすべて生き物えある万霊を供養する。

仁王尊とは、左方密迹金剛は口を大きく開いて阿字金剛力士といわれ、万有の根源、胎藏界の真理を表し、右方那羅延金剛は口を閉じて吽字金剛力士といわれ、万有終局の真理を表す。

両金剛共全身裸で下方こしのまわりだけ衣装をつけ勇猛な形相をして仏法を守護し寺の門前の左右に安置されている。金剛は智を意味し智を以て心の実相を開発して衍迹衆生の苦を抜き樂を与えてくださる大縁の深いみ仏であります。因みに仁王尊像背銘を記す。

奉新造慶長十二未年現住尊賀
奉再興明暦二申天現住隆海
仏師 岡山市丸亀町 小野十郎衛門貞武朝臣
奉再興天保十四卯天九月吉
備中宮内片山 中山 力蔵
真如院東林山明仙童寺
天台の題目碑(仁王門)

仁王門の由来

仁王門は慶長十二年真如院中興尊賀法印代松並木馬場境内の中間に建立安置さる。明治二十五年破損甚だしく取崩され爾来八十有余年尊像の本堂下陣に安置さる。昭和四十八年春祖信徒の浄業により現地に仁王像を再建し尊像を安置し奉る。

仁王門の説明書
(念仏石の解説はない)